令和８年度　金沢市持続可能な観光振興推進会議
議事要旨概要版（意見の抜粋）

◆観光消費額と宿泊人数・コンテンツについて

覺井委員：

・[質問]外国人１人当たりの観光消費額目標の７万円に対し、現状の数値との間に開きがある点について、市としてどのように分析されているか伺いたい。

→（善家課長より）消費額目標は令和５～６年度の上昇を踏まえた推移として設定している。

・滞在日数が３泊以上に伸びている一方で、１人当たりの消費額が減少傾向にある点が課題である。

・欧州旅行者が金沢を中継地化、体験型コンテンツでの消費へ繋がっていない等の可能性がある。

・地元の DMC や事業者と連携し、高付加価値な体験型コンテンツの創出を強化していきたい。

八田委員：

・９月の５連休での市内ホテル料金は 10 万円以上で、宿泊費高騰も影響しているのではないか。

岡本委員：

・金沢へ送客しているが、日数が増えている印象は無く２泊が多い。

・一般論的な３つの仮説として、１つ目は客層の変化（３泊以上するが宿泊単価が低い層が増化）。

・２つ目は商品設計の問題（長期で宿泊するが金沢でお金を落とす仕組みやコンテンツが不足）。

・３つ目は高消費の富裕層と低消費の長期滞在層という別々の集団が存在している可能性。

・K-TA 等、今後は市場・泊数・消費額の解像度を上げて分析することが必要。

矢ケ崎座長：

・富裕層を一般統計で追うのは難しく、別途モニター指標として把握する必要があるのはないか。

深谷委員：

・海外の旅行会社や DMC によると「富裕層が満足して宿泊できる宿が金沢市内に不足しているため、加賀温泉等に流れている」という指摘があった。金沢市内では０泊という場合もある。

大西委員代理：

・オーストラリアでは数年前に新聞で「京都は人が多いため金沢に行こう」といった記事が載り、データがそのまま表れている。

浅田委員：

・データのその先のストーリーが見えづらい印象であった。

・旅館業の現場として、最近は２泊が当たり前で３泊の外国人連泊客も増えている。

・友人間や口コミ等で「金沢は１泊では足りない」と広まった可能性があり、傾向は続くと考えられる。

・消費額の向上や連泊を増やすには他都市の成功事例や比較データを参考にできるとよい。

・成功都市における消費行動、金沢ならではの買い物や各施設入場料以外に何に落とすのか、比較することで金沢には何が足りないか活発に意見が出るのではないか。飲食の強化は必要と考える。

浦委員：

・ヴェネツィア・ビエンナーレでは国際美術展と国際芸術展が隔年で交互に開催されている。

・金沢市でも来訪目的となるような継続実施されるイベントがあるとよい。

◆市民満足度・相互理解について

牧野委員：

・市民満足度が上昇しているのはよい結果だが、対する施策についてはあまり触れられていない印象だ。

・現場では観光客への拒否感を持つ住民も一部いる。宿の運営でも地域との相互理解に力を入れている。

・現場の意識や取り組みにも注視していただけるとよい。

大西委員代理：

・市民の受け入れ意向が高いとあったが、飲食店などの現場ではマナー違反やドリンクのみの利用に対する懸念の声がある。

・日本のマナーや啓発をしっかり行うことで、お互いに気持ちよく過ごせる環境づくりが進むと考える。

矢ケ崎座長：

・アンケートの市内中心部や郊外の他、中心部でもさらに細かく見ていくことも想定される。

・海外と日本におけるカフェ文化の違いも飲食店のマナーに影響していると考える。

能木場委員：

・婦人会として、近江町に訪れる外国人を案内している。街並みの紹介も行っている。

・人が少なくランチを楽しめる場所等、聞かれたら紹介できるように婦人会内で共有している。

矢ケ崎座長：

・婦人会として MICE を実践されているようだ。

・市民と旅行者の相互理解促進は時間がかかるが、継続して行い成果が出せるとよい。

・コペンハーゲンの清掃まち歩きツアーは利用者も増えており、広がりを生むために参考とするとよい。

◆観光インフラ整備について

早川委員：

・ハンガリーではバス・地下鉄・トラムの１～３日フリー乗車券がそれぞれ販売されている。３日フリー乗車券であればブタペストへも足を運ぶことができる。

・金沢市では現在１日券が販売されているが、３日券等があってもよいのではないか。

・観光客からの声として、Wi-Fi の通信環境が課題となっている。英語での記載も少ない。

・観光インフラが整備され心地よい街となる事で、滞在日数が増え消費額も向上するのではないか。

八田委員：

・ブダペストでは、65 歳以上は公共交通の利用が無料である。

矢ケ崎座長：

・単に安く売るのではなく、人数が増えるとインセンティブが発生するような発想も重要である。

◆夏季の入り込み客数について

八田委員：

・８月の夏場は金沢も非常に暑く、湿度が高いため観光客にとっては歩きにくい季節だ。

・日傘の貸し出しはよい取り組みだが欧米人等の夏場における集客を伸ばすのは難しいのではないか。

・ウィーンやブダペストも暑いものの、乾燥していた。

矢ケ崎座長：

・JNTO でも、８月の訪日外客数は前年同月比から 10%近く減少している。

・万博等で日本の暑さが認知されたため、様々な地域からの誘客も重要となる。

深谷委員：
・シンガポールの旅行会社曰く JAL や ANA のみコストが２倍と高く、勧められないようだ。
・旅行客からのキャンセルもあり売りづらかった。また、中東情勢も影響しているのではないか。
・次年度夏季の集客を落とさないためにも、注視・調査が必要である。
浅田委員：
・夏季の宿泊業は苦戦し、浅田屋では夏のみ 12 歳以下の宿泊も可能としたが伸びなかった。
・ドイツの旅行会社曰くヨーロッパのほうが酷暑のようだ。
・金沢だけでなく日本全体、または世界的に旅行シーズンではなくなってきた可能性もある。

◆ターゲットについて
八田委員：
・ソウルの空港では金沢よりも欧米人の人数が少なかった。ロンドンの繁華街ではアジア人の若年層が多く、高い消費意欲を持っているため高額な化粧品も売れていた。
・今後の展開として、欧米人が街を歩いていると恰好がよいが、今以上に伸びるのは難しいと思われる。
・観光消費行動の視点からアジア人富裕層へのアプローチ、リピーターに向けた取組が今後重要になる。
矢ケ崎座長：
・金沢らしさも踏まえ誘客対象を検討できるとよい。
深谷委員：
・アッパーマス～ビリオネアと多様な富裕層に対し金沢はどこを狙うのか、解像度を高める必要がある。

◆平準化について
小林委員：
・貸切バスは 12 月～２月の冬季における閑散期対策が長年の課題である。
・稼働してなくても維持費が発生し、グリーンシーズンで稼いだ分で冬場を耐える構図が続いている。
・ダンピング競争に陥らないよう、冬場の平準化率を上げるための抜本的な対策を共に考えていきたい。
浅田委員：
・平準化は金沢特有なのか日本全体なのか、次回はその点への言及もあるとよい。

◆官民連携について
覺井委員：
・WESTER アプリを活用した金沢プラスワンジャーニーは第２回目も好調な出だしである。エリア分散化に向け引き続き協力したい。
矢ケ崎座長：
・富裕層のモニター指標を把握する為に、岡本委員や市内事業者と協力した調査等が想定できる。

◆広域連携（能登復興）について
覺井委員：
・能登にある宿の復興に時間がかかる中で、風化を防ぐため広域連携での仕掛けを強化してもらいたい。
→（善家課長より）七尾や中能登も含め能登との連携は今後一層推進していく所存である。

能木場委員：

・全国地域婦人団体連絡協議会中部ブロック会議（北陸３県＋愛知・岐阜）にて、今年はのと楽に 135 名で訪れた。

・和ろうそくや、「がんばろう能登どら焼き」等の購入を通して能登への支援を行った。